

令和6年度 意見交換会報告書



《目次》

◆意見交換会等日程、出席委員及び参加者.....	1
◆令和6年度意見交換会について.....	1
◆意見交換会の概要.....	2

宗像市議会 総務常任委員会

◆意見交換会等日程、出席委員及び参加者

日時	会場	テーマ	出席委員 (◎委員長、 ○副委員長)	参加者
6月28日(金) 15:00~	第2委員会室	消防団活動における課題	◎井浦 潤也 ○川内 亮 伊達 正信 岡本 陽子 森田 卓也 石田 和代志	宗像市消防団 ・松本団長 ・松本副団長 ・高岡副団長 ・増田第1分団長 ・尾園第9分団長 ・吉村第14分団長 宗像市危機管理課 ・徳永危機管理担当部長 ・靱山危機管理課長 ・安部防災係長 ・成瀬消防主任

◆令和6年度意見交換会について

令和6年度、総務常任委員会では、所管する事業のうち、防災に関する取組について学ぶため、消防団との意見交換会を行いました。

実施した意見交換会の概要は、意見交換会概要に記載したとおりです。また、出席した委員の所感も併せて掲載しています。

◆意見交換会の概要

意見交換会の概要は次のとおりです。

概要

消防団は、消防本部や消防署と同様、消防組織法に基づき、それぞれの市町村に設置される非常備の消防機関である。地域における消防防災のリーダーとして、平常時・非常時を問わずその地域に密着し、住民の安心と安全を守るという重要な役割を果たしている。

消防団の団員の多くは本業を持ちながら有事の際に出動する性格上、なり手が限られ、団員の高齢化や搜索活動の負担増などが課題となっている。今回の意見交換会では、消防団が抱える課題や負担の軽減を図ることができないか検討するため、主に(1)搜索活動の負担、(2)格納庫の老朽化、(3)消防団員の確保の3つについて意見交換を行った。

(1)搜索活動の負担について

近年、認知症高齢者の行方不明が増加している。搜索活動は消防団と消防署、警察、自治体が連携しているが、手がかりがつかめずに終わることが多い。LINEやメールなどのツールの効果は今のところ限定的であり、GPS活用には人権上の課題もあり進んでいない。他の自治体の先進事例もみられていない状況である。

(2)格納庫の老朽化について

消防車の格納庫は順次建て替えを行っているが、格納庫の設置場所に課題がある場合もある。河川の氾濫によって水没するおそれのある格納庫や、もともと開けた場所に設置されていたが、後から新築住宅が増加し、団員自家用車の駐車スペースに困るという意見が上がった。市の予算として対応できるものについてはできる限り協力していく旨を伝えた。

(3)消防団員の確保について

現在、少子高齢化や生産年齢人口の減少に伴い、団員不足が課題となっている。課題解決の方策として、自治体のイベントや広報を通じて消防団のPR活動を増やしてはどうかという意見や、飲食店での割引など消防団に加入するメリットを感じられる方策を考えられないかという意見が上がった。

委員の所感

消防団との初めての意見交換会だったが、事前に課題の整理がよくされており進行がスムーズに行えたのはよかった。消防団の抱える課題についてよく理解でき、議会側から課題解決へつなげる提案も

できたものもいくつかあったと感じている。搜索活動の負担軽減策のための本市公式LINEを活用した行方不明者の早期情報発信の検討や、消防団員の確保策として漁協関係者との協議により水難救助隊を活用した機能別消防団の結成(水上分団の再結成)、消防団活動のPRのための広報紙の作成、大型スーパーなどでの出初式などの開催継続及び駅前での開催検討や火災時などにおける消防団の活動状況などの報道依頼、ポンプ車運転のための準中型自動車免許免許取得への補助(市のみではなく、制度設計や予算確保に向けて国や県への働きかけ)など、今後検討していく必要があると感じた。

消防団員の確保については、自治会を通して、消防団の存在意義や活動内容を市民(若い世代)へ知らせることが必要である。宗像市民、全員の命と財産を守ってもらっていることを理解してもらうことが重要であり、その上で、自治会を通じて地域住民に団員募集を知らせる仕組みづくりが必要と考える。団長から学生の消防団員加入の話があったが、市と協働して進めてほしい。

搜索活動の負担軽減のため、「認知症高齢者探してメール」に対象となるような家庭に登録してもらえよう広報・啓発活動や、搜索する側の一般市民にも登録の協力を求める広報活動が必要であると考え。また、本市独自の「探してメール」の検討も必要ではないかと考える。

道路交通法の一部改正に伴って、ポンプ車の運転のために新たに「準中型自動車免許」の取得が必要となった。市からの補助金支給を迅速に進めてほしい。

最後に、団長の言われた「消防団魂は継続されている」という言葉に敬意を表したい。

搜索活動の負担については、おおむね72時間に及ぶ搜索や歩いての搜索になるため、仕事をしながらの活動は困難を極める。一部の団員に負担が過度にかからないように対策が必要だと考える。

格納庫の老朽化については、早急に予算確保が必要である。特に光岡の格納庫については、周りに住宅が建ち、団員の駐車場が確保できない状態なので、早急に移転先を含めて対処する必要がある。

「搜索活動の負担」については、日中の搜索にはそれぞれの仕事を返上し、または休みを取る等して数日間も活動することがあり、団員の活動の中でも負担がかなり重くなることが分かった。搜索活動の情報等をコミュニティ運営協議会や自治会、各学校との連携を強化することで早期発見に繋がられないかと考える。

消防車の格納庫については、住宅が隣接することにより出動の際に団員の車を置くスペースがなく、早期消火のための出動の妨げにな

っている。格納庫付近には団員の駐車場や余裕のあるスペースを確保できるようそれぞれの場所の見直しは必要と考える。

団員の確保については、まずは全市民に消防団の活躍の姿や、活動実績、団員による初期消火にて市民の生命が大きく守られている実態を度々周知することが重要と考える。消防団が存在することにより、消防署による消火活動が軽減され、人件費等が削減できているという観点から「消防団はエコである」ことを市民に理解してもらうことが重要である。

ポンプ車の運転免許制度については、国に対して「団員のための緩和策」を協議してもらうような働き掛けが必要と感じた。

本業のかたわら、認知症行方不明者の捜索を行い、何度も空振りになることがあるという現状を聞き、消防団活動の負担の大きさを感じた。今後、他自治体の先進事例がないか、課題解決につながるツールがないかなど、アンテナをしっかりと立てていきたい。

平日の日中、本業のさなかに意見交換会のために出席していただいた消防団員の皆さまに深く感謝したい。

深刻に捉えなければならない課題が2つあると感じる。

1点目は、今や、消防団の活動は捜索活動が主になっているとのことである。特に認知症の人の遠距離移動による広範囲の捜索は多くの人が体験している。最近掲載された西日本新聞の記事によると、認知症不明者が11年連続で増加し、過去最多を更新する中で、うち死亡者553人という状況は深刻だと感じた。生命維持可能な72時間の中で、消防団の方々はその間、自分の仕事を休む必要もあるという。この負担を軽減するため、誰かが読み取るとその位置情報などを家族に知らせる QR コード、発信器を持った人が近くを通ると家族に知らせる自動販売機などの ICT、GPS端末やドローンの活用が実際の捜索活動にどう生かせるのかを考える機会となった。

2点目は、消防団員の高齢化、後継者不足である。社会貢献という役割を担う消防団であるが、地域の結びつきが薄れつつある中で、「消防団員でよかった」と思えるよう、社会貢献したことが消防団員自身の生活に成果として反映されることが必要だと感じる。後継者育成のために小学校や幼稚園の子どもの消防団体験を行っているとのことであるが、子どもが「楽しい、カッコいい」と感じることは、消防団人材育成につながると感じた。

今回の意見交換会により、消防団の役割の変化、消防団の人材育成のための幼児教育・学校教育の必要性を実感した。消防団の負担感軽減、捜索活動のための IT、機械の導入、人材育成のための教育など、市として今、消防団が抱える課題について具体的に支援する方法を考えるべきだと感じる。

